

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																																
国際医療看護福祉大学校	平成13年12月11日	佐藤 本実	〒 963-8811 (住所) 福島県郡山市方八町2-14-9 (電話) 024-956-0160																																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																																
学校法人国際総合学園	昭和32年10月22日	池田 祥護	〒 951-8063 (住所) 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																															
医療	医療専門課程	言語聴覚士科	平成17年文部科学省告示第30号	-																																															
学科の目的	医療・福祉・保健の領域で質の高い医療技術を提供できる言語聴覚士を育成するために、言語聴覚療法の専門知識、技術を体系的に学ぶ。さらに、人間性豊かな対人専門職としてコミュニケーション障害をもつ方々の心を理解する感受性や洞察力を磨き、臨床場面で起こる様々な問題に対応できる問題解決能力を育成する。																																																		
認定年月日	平成26年3月31日																																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																												
3年	昼間	3045時間	2355時間	210時間	480時間	0時間	0時間																																												
生徒総定員	生徒実員	留學生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																														
120人	44人	0人	5人	21人	26人																																														
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 定期考査と平素の学習状況を総合して評価する。 評価の方法: A・B・C・Dの四段階で評価する。なお、Dは不合格。																																															
長期休み	■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月25日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件: 学則の全科目の単位を履修。 進級条件は、当該年度の全科目の単位を履修。																																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任・スクールカウンセラーによる個別面談および学科長・担任による学生・保護者面談		課外活動	■課外活動の種類 特になし ■サークル活動: 無																																															
就職等の状況※2	#REF! あづま脳神経外科病院、南相馬市立総合病院、会津中央病院、宇都宮リハビリテーション病院、所沢ロイヤル病院、庄内余目病院、東大阪山路病院、三友堂病院など ■就職指導内容 マッチング、履歴書の添削、模擬面接による指導、卒業した未内定者への就職支援等 ■卒業生数 20 人 ■就職希望者数 19 人 ■就職者数 19 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 95 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・就職活動中: 0人 ・国家試験再受験: 1人 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語聴覚士国家試験</td> <td>②</td> <td>20人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	言語聴覚士国家試験	②	20人	19人																																				
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																
言語聴覚士国家試験	②	20人	19人																																																
中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和3年4月1日時点において、在学者52名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者50名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 生活環境の乱れ等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生との個別面談、保護者会、保護者面談、三者面談、スクールカウンセラーとの面談等		■中退率 4%																																																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 「無利子奨学制度」年額30万円を無利子で貸与し、卒業後の返済により、就学の便宜を図っている。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																																		

当該学科の ホームページ URL	URL : http://www.i-medical.jp/
------------------------	---

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

言語聴覚士の育成において、言語聴覚士法を鑑みつつ、医療・福祉の現場が専門学校に望む教育内容を確認する。更に、地域医療に貢献できる言語聴覚士を育成するため、病院並びに施設側、学生側双方にとって望ましい教育内容を提供すべく、医療・福祉機関との連携を図りながら教育課程の改善を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会の目的として「教育課程編成の改善」を主とするため、本委員会を教務部の指導・助言機関として位置づけ、委員会での協議事項を学校管理者で検討するとともに、本校及びグループ校の意見等を取り入れながら教育課程へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
畔上 恭助	国際医療福祉大学保健医療学部 教授	令和3年4月1日～令和4年3月31日	②
阿久津 由紀子	福島県言語聴覚士協会 会長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	①
志和 智美	あずま脳神経外科病院総合ケアセンター 副センター長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	③
佐藤 本実	国際医療看護福祉大学校 学校長		
岡崎 史紹	国際医療看護福祉大学校 教務部長		
齋藤 順子	国際医療看護福祉大学校言語聴覚士科 学科長		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年7月21日 13:30～15:00

第2回 令和4年3月16日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

本課程における課題は国家試験における結果が低調な点で、これまで本委員会にて様々な意見をいただきながら改善を進めてきた。委員からのアドバイスを受けて、グループ学習を積極的に取り入れるなど改善してきたが、その成果もあり、令和3年度の国家試験合格率は95%となった。この点は、各委員から高い評価を得ることができた。また、働く先輩たちの声を聞く機会がたくさんあると学生のモチベーションの上昇につながるのではないかとアドバイスがあり、卒業生が後輩たちに卒業後の活動について話してもらう機会を設けた。現在、コロナ化の影響で対面での失語症患者との交流が難しい点、学生の質が低下している点、STを目指す学生が減少している点など、失語症友の会や大学も共通の悩みを抱えており、この点については意見交換や交流を活性化しながら現状を打開していくことで意見の一致を見た。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習を通して言語聴覚療法の専門的知識や技術のみならず、人間性豊かな専門職としてコミュニケーション障がいを持つ方々の心理的側面を理解するように努めることを目的とする。更に臨床場面で起こる様々な問題に柔軟に対処するための能力を育成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習の目標や課題を明確にし、実習指導者は、到達度・評価を項目別に点数化する。評価表は文書にて作成し、各学生に返却。返却時に内容を伝達し、本人の改善点を明示して今後のスキルアップを図る。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	評価実習を行い、言語聴覚療法の専門的知識や技術を学ぶとともに、社会人としてスキルを養う。	学内実習
臨床実習Ⅱ	訓練プログラムの作成、訓練の実施、訓練を再評価といった一連の総合実習を行う。	総合南東北病院、あずま脳神経外科病院、わたり病院、かしま病院、宇都宮リハビリテーション病院、学内実習 等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門教育における教員には、授業を通して医療・福祉現場のたゆまぬ進歩の状況を学生に伝えられる知識と、学生の内面を理解した授業スキルの向上が求められる。そのため、就業規則第57条等による研修体制を充実させることで日々の研鑽を図る方針を推進している。各教員の専攻分野における実務に関する研修については教務部の年度ごとの計画に沿って、指導力の修得・向上に関する研修については各教員の契約形態や勤続年数に応じて、定期的・計画的な研修を受講させている。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修については、就業規則第57条に以下の通り記載がある。

第57条(教 育)

学園は職員に対して一般的、又は職務上必要な次の教育を行う。

- (1) 新入社員教育
 - (2) 一般的な知識及び情操に関する教育
 - (3) 専門的な知識、技能に関する教育
 - (4) 管理、監督者教育
 - (5) 諸法規、諸規程に関する教育
 - (6) 安全衛生教育
 - (7) 安全運転教育
 - (8) その他必要と認められる教育
2. 職員は、学園の行う教育に積極的に出席しなければならない。
 3. 職員は、学園から園外研修講座に受講を命ぜられたときは、積極的に受講し、かつ復命しなければならない。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	福島県言語聴覚士会総会・研修会	主催(連携)企業等:	福島県言語聴覚士会
期間:	令和3年5月16日	対象:	専任教員
内容:	ST専門分野における研究発表		
研修名:	全国リハビリテーション学校協会総会	主催(連携)企業等:	全国リハ学校協会
期間:	令和3年6月26日	対象:	専任教員
内容:	学術研究		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	FSGカレッジリーグ新入社員研修	主催(連携)企業等:	FSGカレッジリーグ
期間:	令和3年4月6日、7日、8日、9日	対象:	専任教員
内容:	FSGカレッジリーグの概要、学生指導に関する研修(授業、就職、資格取得など)		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第23回日本語聴覚学会	主催(連携)企業等:	日本語聴覚士協会
期間:	令和4年6月24・25日	対象:	専任教員
内容	学術研究		
研修名:	失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修	主催(連携)企業等:	日本語聴覚士協会
期間:	令和4年10月15・16日	対象:	専任教員
内容	失語症者に対する意思疎通支援者の指導者のための研修(オンライン予定)		
研修名:	脳神経無内科×言語聴覚療法の世界	主催(連携)企業等:	福島県言語聴覚士会
期間:	令和4年11月27日	対象:	専任教員
内容	失語症、高次脳機能障害、物忘れ、神経難病について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	FSGカレッジリーグ新入社員研修	主催(連携)企業等:	FSGカレッジリーグ
期間:	令和4年4月5日、8日、12日、21日、25日	対象:	専任教員
内容	FSGカレッジリーグの概要、志・目標に向けてかなえるためには(ディスカッションなど)		
研修名:	コミュニケーション改革	主催(連携)企業等:	FSGカレッジリーグ
期間:	令和4年5月19日	対象:	専任教員
内容	ハラスメントのない職場づくりについて		
研修名:	SNSリスク研修	主催(連携)企業等:	FSGカレッジリーグ
期間:	令和4年6月3日	対象:	専任教員
内容	SNSについて		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営(法人)
(9) 法令等の遵守	管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校・評価委員会・本部による点検後の自己点検評価に基づき、不備な点の改善、方向性、及び次年度以降の解決・取組課題を具体化し、学校の質保証・向上に努めております。委員からはコロナ禍により遠隔授業を行う際の自宅のWi-Fi環境問題について意見があり、保護者への理解を図ると共に対応できていない学生への代替えで受講できる方策を用いて、教育レベルを維持させながら国家試験に向けた学習を提供できた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
片岡 則之	日本大学 機械工学科	令和2年4月1日～令和5年3月31日	教育関係
清水 一浩	東北健康福祉株式会社	令和2年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
窪 睦子	総合南東北病院	令和2年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
遠藤 次男	仙南地域広域行政事務組合消防本部	令和2年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
佐藤 武諭毅	(株)フォーストエマージェンシー	令和2年4月1日～令和5年3月31日	校友会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学校案内)

URL: <http://www.i-medical.jp/>

公表時期: 令和4年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要・教育理念・教育目標
(2) 各学科等の教育	学科別カリキュラム・特色・資格・就職実績
(3) 教職員	専任教員・兼任教員紹介・数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事・対外活動・イベント・施設・設備
(6) 学生の生活支援	各種奨学資金・学生寮・住居紹介
(7) 学生納付金・修学支援	各種奨学資金・学費サポート・特待生制度
(8) 学校の財務	収支決算書
(9) 学校評価	自己点検評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生状況・国際提携校・国際交流活動
(11) その他	生涯学習・編入学等

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学校案内、DM他印刷物にQRコードを付けて閲覧を促進している))

URL: <http://www.i-medical.jp/>

公表時期: 令和4年10月1日

授業科目等の概要

(医療専門課程 言語聴覚士科)														
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	授業方法			場所			企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	兼任	
	○			心理学	心理学の基礎を学ぶ。	1年次前期	30	2	○			○	○	
	○			芸術	音楽療法を通し感性を身に付ける。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			国語	言語学の基礎となる口語文法、及び文書作成、読解力の学習を通して基礎的な国語力を醸成する。	1年次前期	15	1	○			○	○	
	○			教育学	学校・教育・指導などについて理解を深める。	1年次後期	30	2	○			○		○
	○			社会学	社会全体の構造や変動、個人の価値・志向性等を考える。	1年次後期	30	2	○			○	○	
	○			職業倫理学	仕事・職業に関する考えからSTを目指す自分を振り返り、倫理的考えを体験する。	3年次前期	15	1	○			○	○	
	○			生物学	人体の構造の基礎として、生物の正しい知識を習得する。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			統計学	基本事項の理解とデータの処理法を学ぶ。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			情報処理	Word・Excelを用いて文章や計算の処理能力を身につける。	1年次通年	60	2	○			○		○
	○			英語	高校基礎英語（文法・読解）を習得する。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			英会話	簡単な英語を使って日常会話を学ぶ。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			保健	健康的な生活習慣を培うための基礎について学習する。	1年次後期	15	1	○			○		○
	○			体育	安全に配慮し、協力して運動する態度を育成する。	1年次前期	30	1	○			○		○
	○			医学総論	日本の医療現場の現状を見極め、現代医療の本質を見極める。	1年次前期	15	1	○			○		○
	○			解剖学	人体の構造を理解する。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			生理学	人体の構造と臓器・組織の働きを理解する。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			病理学	病気の原因と本質を理解する。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			精神医学	精神医学の基本的な知識の習得。	2年次後期	30	2	○			○		○
	○			小児科学	小児の疾患や発達を学ぶ。	2年次後期	30	2	○			○		○
	○			内科学	代表的な疾患の原因と症状を理解する。	2年次前期	30	2	○			○		○
	○			リハビリテーション医学	脳神経外科を理解しながら現場のリハビリテーションの実際を学ぶ。	2年次後期	30	2	○			○		○
	○			耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科学領域の基礎知識の理解を深める。	2年次前期	30	2	○			○		○
	○			形成外科学	形成外科の基本事項を理解する。	2年次後期	15	1	○			○		○
	○			臨床神経学	神経や筋肉の異常について学び、各神経疾患の病態の知識を得る。	2年次後期	30	2	○			○		○
	○			臨床歯科医学・口腔外科学	顔面・口腔の解剖・生理・病態を学ぶ。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			聴覚系の構造・機能・病態	聴覚系の構造・機能・病態を学ぶ。	1年次前期	30	2	○			○		○
	○			呼吸・発声・発語系の構造・機能・病態	呼吸発声発語に関わる器官の構造・機能・病態を学ぶ。	1年次後期	30	2	○			○		○

58	○	運動障害性構音障害Ⅰ	ディサースリアの概要・特徴を理解し、検査方法、検査の解釈、訓練プログラムの立案まで学習する。	2 年次 前期	30	2	○			○	○		
59	○	運動障害性構音障害Ⅱ	運動障害性構音障害に関する既習の内容を生かし、実技演習を行う。	2 年次 後期	30	2	○	△		○		○	
60	○	吃音	吃音の基礎知識・検査・訓練について学ぶ。	1 年次 前期	30	2	○			○	○		
61	○	嚥下障害Ⅰ	定義・原因・筋と神経などを理解できる。嚥下病態について学習する。	1 年次 後期	30	2	○			○	○		
62	○	嚥下障害Ⅱ	摂食・嚥下障害の実際の対応について学ぶ。アプローチ法・リスク管理含む。	2 年次 後期	30	2	○			○	○		
63	○	嚥下障害Ⅲ	嚥下障害に関する既習の内容を生かし、実技演習を行う。	2 年次 前期	30	2	○	△		○		○	
64	○	聴覚障害総論Ⅰ	聴覚障害の概要を捉える。	1 年次 後期	30	2	○			○	○		
65	○	聴覚障害総論Ⅱ	聴覚機能検査の概要と実施方法を理解する。	2 年次 前期	30	1	○			○	○		
66	○	聴覚障害Ⅰ	小児聴覚障害と言語発達および聴覚検査その他の検査を理解する。	2 年次 後期	30	2	○			○		○	
67	○	聴覚障害Ⅱ	成人聴覚障害の概要を学ぶ。	2 年次 前期	30	2	○			○		○	
68	○	聴覚障害Ⅲ	聴覚補償の考え方を理解し、補聴器の基礎から応用までを習得する。	2 年次 後期	30	2	○			○		○	
69	○	臨床実習Ⅰ	評価実習を行い、言語聴覚療法の専門的知識や技術を学ぶとともに、社会人としてスキルを養う。	3 年次 通年	160	4				○	○	○	
70	○	臨床実習Ⅱ	訓練プログラムの作成、訓練の実施、訓練を再評価といった一連の総合実習を行う。	3 年次 通年	320	8				○	○	○	
71	○	一般臨床医学	心肺蘇生・応急手当法の習得、看護行為に共通する援助技術の理解。	2 年次 前期	30	2	○			○		○	
72	○	手話	手話の基礎、簡単な日常会話を学ぶ。	1 年次 前期	30	1	○			○		○	
73	○	国家試験対策	国家試験合格を目標とし、国家試験出題範囲の学習に取り組む。	3 年次 後期	240	16	○			○		○	
74	○	臨床実習対策	臨床実習が円滑に行えるよう、知識・技術を身につける。	3 年次 前期	90	6	○			○		○	
合計					74科目			3045単位時間(176単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：全科目の単位を履修すること		1学年の学期区分	2期
履修方法：①3分の2以上の出席率 ②定期試験等の結果がC評定以上		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合には、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。